

14. 驅瘀血劑

蓄血・瘀血の証を治療するのに用いられる方劑である。

瘀血も蓄血も静脈系の鬱血状態、或は微小循環障害の状態に相当する。外傷、炎症、手術侵襲、出産、月経異常、免疫異常、血管系の異常、寒冷等種々の原因によって生じ、これがまた新たな原因となって様々の病態や症状を惹起する。

蓄血とは、傷寒六經の経過中に、邪が下焦に伝わり、血と相搏ち、身熱、譫妄、発狂、煩躁、少腹急結、小便自利、脈沈実等の症状を現わすものである。

瘀血・蓄血は月経異常、少腹満、下腹部腫塊、血絡、細絡、脈沈澁、或は悪血内留して疼痛などを呈する。

桃核承氣湯、桂枝茯苓丸、通導散、治打撲一方。

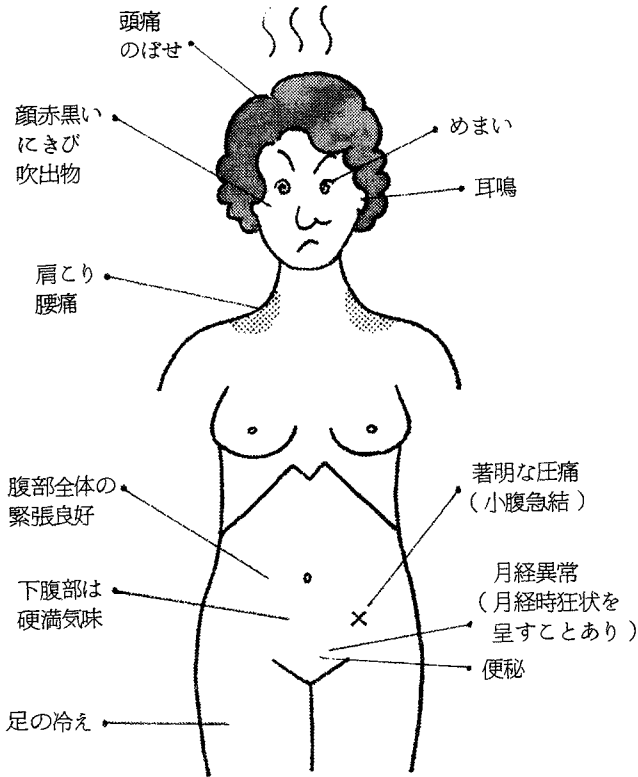
とう かく じょう き とう 桃 核 承 氣 湯 (傷 寒 論)

方 意

病邪が太陽経を伝って膀胱に入り、熱と化して蓄血の証を表わしたもので、実証向きの駆瘀血剤である。顔色は赤黒く、のぼせと瘀血症状の強い者に用いる。病位は太陽の腑証（膀胱の血分）。
月経時などに精神異常や異常な言動を現す婦人は本方の証が多い。
脈は沈実、あるいは瀦。舌は、乾燥し黄苔をみる。

診断のポイント

- ・実証で瘀血症状
- ・小腹急結
- ・のぼせと精神不安定



原 典

太陽病解セズ、熱膀胱ニ結ビ、其ノ人狂ノ如シ。血自ラ下ル。下ル者ハ愈ユ。其レ外解セザル者ハ尚オ未ダ攻ムベカラズ。マサニ先ズ其ノ外ヲ解スベシ。外解シ已リテ、タダ小腹急結スル者ハ乃チ之ヲ攻ムベシ。桃核承氣湯ガ宜シ。(傷寒論・太陽病中篇)

処 方

トウニン (桃仁) …………… 5.0g	カンゾウ (甘草) …………… 1.5g
ケイシ (桂枝) …………… 4.0g	無水ボウショウ (芒硝) …… 2.0g
ダイオウ (大黄) …………… 3.0g	